

# 東京 2020D&I アクション

## -誰もが生きやすい社会を目指して-

東京 2020 大会は、その大会ビジョン「スポーツには世界と未来を変える力がある。」の基本コンセプトとして「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」を掲げています。「東京 2020D&I アクション -誰もが生きやすい社会を目指して-」も、これらの考えに基づいています。

新型コロナウイルス感染症による新たな差別や格差の拡大といった社会の分断が深まる中、大会に参画する多様な個性がある多くの人々が、自分らしさを発揮して、違いを認め合い、違いを活かしながら協力することのすばらしさを改めて認識する場が、東京 2020 大会です。

私たち一人ひとりには、人種、肌の色、性別、性的指向、性自認、障がい、言語、宗教、政治的又はその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別がなく、互いを認め合い、誰もが自分らしく生きられる共生社会を目指します。

東京 2020 大会を契機として、私たちの社会と未来に向けて何ができるかを考え、大会後も実践していくものとして、私たちのアクションを宣言します。

- 多様な人々との開かれた対話やコミュニケーションを継続し、「誰もが生きやすい社会」の大切さを共有するとともに、広く関係者を巻き込んだムーブメントを起こすことで、その価値を社会に広めていきます。
- これまで準備を進めてきた、東京 2020 大会に関わるあらゆる人への「多様性と調和」の取り組みを、大会において確実に実践し、差別やハラスメントのない、誰もが主役の大会を実現します。
- 東京 2020 大会の「誰もが生きやすい社会」を追求する取り組みが、次世代の人々や、オリンピック・パラリンピックムーブメントの中で継承されるよう、これまでの活動の成果や今後に向けた課題を記録するとともに、各関係者に働きかけていきます。
- 東京 2020 組織委員会の職員は、東京 2020 大会を通じて得た経験や知識を活かし、大会後もその一人ひとりがレガシーとなり、「誰もが生きやすい社会」に向けた自らの行動を継続していきます。

2021 年 8 月 18 日

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

会長 橋本 聖子